〔泌尿紀要11巻4号
昭和40年4月〕

尿路感染症に対する Bayrena の使用経験

岩手医科大学皮膚科泌尿器科教室
（主任　伊崎　正勝教授）
助教授　大　堀　　勉
講　師　小　柴　　健
助　手　神　崎　政　裕
助　手　後　藤　康　文
助　手　村　本　俊　一

CLINICAL USE OF BAYRENA IN URINARY TRACT INFECTIONS

Tsutomu OHORI, Ken KOSHIBA, Masahiro KANZAKI, Yasubumi GOTO and Toshikazu MURAMOTO

From the Department of Dermatology and Urology, Iwate Medical Colloge
(Director : Prof. Dr. M. Izaki)

Bayrena (2-(p-aminobenzenesulfonamido)-5-methoxypyrimidine), a new long acting sulfonamide, was used in twenty-one patients with various urinary tract infections. Fourteen of the cases were with acute cystitis and the remaining 7 cases were with chronic urinary tract infections of various etiology.

The daily dosage was initiated with 1 gram (2 tablets) and followed by maintenance dosage of 0.5 gram (1 tablet). The length of administration varied from 5 to 28 days ; about 9 days in average.

Bayrena was found to be effective in 11 out of 14 cases of the acute cystitis (79 %), but only in 2 out of 7 cases of the chronic urinary tract infection (29 %). The remaining 8 cases showed no response to the Bayrena treatment.

Side-effect due to the routine oral administration of Bayrena was almost negligible. A mild epigastric discomfort and anorexia were noted in only one case.

As a conclusion, we believe that Bayrena is an effective chemetherapeutic agent for combating acute urinary tract infections.

緒　　言

化学療法の発達した今日においても，尿路感染症は依然として我々泌尿器科医にとつて最も多く遭遇する疾患であり，Sulfa 剤はその治療に際して最も一般的に使用されてきた薬剤であると云えよう．従つてその改良，発展のため数多くの努力がなされて来た．今回，我々は西独 Bayer 社で作られた新持続性 Sulfe 剤 Bayrena の提供を受け，岩手医大泌尿器科外来を訪れた諸種の尿路感染症に対して使用する機会を得たので，その臨床成績をとりまとめて報告する．

使 用 方 法

Bayrena には錠剤と懸濁液のものとがあるが，我々の使用したのは錠剤で，この錠剤は1錠中に 2-(p-aminobenzenesulfonamido)-5-methoxypyrimidine 0.5gram を含有しているものであり，1日1錠づつの投与により充分な治療効果を持続出来ると云われている．我々は，全例（成人）に対して，初日2錠，次いで維持量として1日1錠づつの投与を行なつ

た．投与期間は，急性炎症に対しては原則として7日間（4 g）の投与を行なつたが，慢性感染症に対しては，症例により，より長期の投与を行なつたものもある．

臨床成績

我々は21例の諸種尿路感染症患者に対して Bayrena による治療を行なつたが，その疾患別のうちわけは表1に示す如くで，急性膀胱炎が14例（女11例，男3例）と2/3を占めており，残りは慢性尿路感染症と分類されるもので，慢性膀胱炎2例，慢性腎盂腎炎1例，腎結石に併発した上部尿路感染3例，TURP後尿路感染1例の計7例であつた．

表1　疾患別症例数

疾患名	女性	男性	計
急性膀胱炎	11	3	14
慢性膀胱炎	2	0	2
慢性腎盂腎炎	1	0	1
腎結石に併発した上部尿路感染症	1	2	3
TURP後尿路感染症	0	1	1
計	15	6	21

（慢性膀胱炎～TURP後尿路感染症：7）

治療効果の判定は次のような区分によつて行なつた．すなわち，Bayrena 投与により臨床症状消失し，尿培養により菌陰性となつたものを著効，菌陰性とはならないが，菌や膿球の減少，および臨床症状の緩解をみたものを有効，何ら効果を認めなかつたものを無効，の3群に分けた．

急性膀胱炎14例の治療内容および，尿所見，臨床症状の概略は表2に示す如くで，大多数の症例に7日間（合計4 g）の Bayrena 投与の結果，著効4例（29%），有効7例（50%），無効3例で，79%に治療効果を認めた．治療効果を認めたものの多くは，投与開始後1～2日で臨床症状の緩解をみている．

慢性尿路感染症の7例に関しては表3に示す如く，慢性腎盂腎炎および右腎結石を伴なつた上部尿路感染症の各1例に Bayrena 投与により尿中の菌および膿球の減少をみたが，他は全べて無効で，本剤の慢性尿路感染症に対する治療効果はあまり期待出来ないものと思われた．

以上の結果をとりまとめて表示すると表4の如くで，21例中，著効4例（19%）のすべては急性膀胱炎であり，有効9例（43%）中でも，うち7例はやはり急性膀胱炎であつた．それに反して無効のものは8例（38%）で，その過半数は慢性尿路感染症であつた．

また，以上の各症例の尿中から検出した菌種別に治

表2　急性膀胱炎に対する Bayrena 使用14例

症例		年令 性	投与日数	投与量総(g)	検出菌	尿培養 前	尿培養 後	尿膿球 前	尿膿球 後	頻尿 前	頻尿 後	排尿痛 前	排尿痛 後	効果	副作用
1	貫洞	44♀	7	4	E. coli	⧻	+	⧻	+	+	−	+	−	有効	−
2	川部	27♀	5	3	E. coli	⧻	−	⧻	−	+	−	−	−	著効	−
3	佐藤	60♂	11	6	E. coli	⧻	+	⧻	+	⧺	+	−	−	有効	−
4	小笠原	31♀	7	4	E. coli	⧻	+	⧻	+	⧻	−	+	−	有効	−
5	渡辺	34♀	11	6	球菌	+	+	⧻	+	⧺	−	−	−	有効	−
6	高橋	68♀	7	4	Staphylococcus	+	+	⧻	−	−	−	−	−	有効	−
7	佐久山	83♂	7	4	E. coli	⧻	⧻	⧻	⧺	−	−	+	−	無効	−
8	坂下	32♀	7	4	Staphylococcus	⧻	−	⧻	−	+	−	+	−	著効	−
9	伊藤	33♀	7	4	Proteus	+	−	+	−	+	−	−	−	有効	−
10	佐々木	23♀	7	4	E. coli	⧺	−	+	−	−	−	+	−	著効	−
11	佐々木(チ)	74♂	14	7.5	E. coli	⧻	⧺	⧺	⧺	+	+	+	−	無効	−
12	藤原	42♂	7	4	Klebsiella	⧻	−	+	−	+	−	+	−	著効	−
13	菊地	62♂	7	4	E. coli	⧺	+	+	−	+	−	+	−	有効	−
14	山口	40♀	7	4	E. coli	⧺	⧺	+	⧺	+	+	−	−	無効	−

表3　慢性尿路感染症に対する Bayrena 使用7例

症例		年令	性	診断名	投与日数	投与量総(g)	検出菌	尿培養 前	尿培養 後	尿膿球 前	尿膿球 後	頻尿 前	頻尿 後	排尿痛 前	排尿痛 後	効果	副作用
15	飯田	33	♀	慢性膀胱炎	28	14.5	グラム陰性桿菌	+	+	+	+	−	−	−	−	無効	−
16	伊藤	32	♀	慢性膀胱炎	7	4	Klebsiella	+++	+++	+	+	−	−	−	−	無効	食欲不振 胃部不快感
17	高橋	40	♀	慢性腎盂腎炎	14	7.5	Proteus	+++	+	++	+	+	−	−	−	有効	−
18	鈴木	29	♂	左腎結石兼上部尿路感染症	7	4	E. coli	++	++	+++	+++	+	+	−	−	無効	−
19	高橋正吾	32	♂	右腎結石兼上部尿路感染症	12	6.5	Staphylococcus Corynebacterium	++ +++	+ −	+	−	−	−	−	−	有効	−
20	斉藤	52	♀	右腎結石兼上部尿路感染症	7	4	E. coli	++	++	+	+++	−	−	−	−	無効	−
21	三沢	52	♂	TURP後尿路感染症	7	4	E. coli Klebsiella	+++ −	− ++	++	++	+	+	−	−	無効	−

表4　諸種尿路感染症に対する Bayrena 使用成績

	例数	著効	有効	無効
急性膀胱炎	14	4(29%)	7(50%)	3(21%)
慢性尿路感染症	7	0	2(29%)	5(71%)
計	21	4(19%)	9(43%)	8(38%)

表5　検出菌別による Bayrena の効果

検出菌	例数	著効	有効	無効
Escherichia	12	2(16%)	5(42%)	5(42%)
Staphylococcus	3	1	2	0
Klebsiella	3	1(33%)	0	2(67%)
Proteus	2	0	2	0
Corynebacterium	1	1	0	0

療効果をみると表5に示す如くで，Staphylococcus, Proteus, Corynebacterium には概ね有効であり，Escherichia には12例中7例（58%），Klebsiella には3例中1例（33%）に有効であつた．

結　語

1）急性膀胱炎14例，慢性尿感路染症7例の計21例に Bayrena 錠（0.5g）初日2錠，以後1錠/日，平均9日間（5～28日）の投与を行なつた．

2）急性膀胱炎では14例中11例（79%）に治療効果を認め，うち4例（29%）には著効をみた．

3）慢性尿路感染症では，7例中5例（71%）には何ら効果を認めず，2例に尿所見および臨床症状の軽快をみたが，全治させるまでには至らなかつた．

4）副作用は少なく，1例に食慾不振と胃部不快感を認めたのみであつた．

以上の成績からみて，本剤は慢性尿路感染症に対する効果は期待出来ないが，急性膀胱炎に対しては有用な化学療法剤であると考える．

尚，本論文の要旨は，日本泌尿器科学会第147回東北地方会で演述した．

（1965年2月15日特別掲載受付）